

### 3 調査結果

#### (1) 会津盆地西縁断層帯

会津盆地西縁断層帯は、熱塩加納村相田付近から喜多方市の西部、会津坂下町、新鶴村を経て、会津高田町西本付近に至る全長約35kmの活断層帯です。

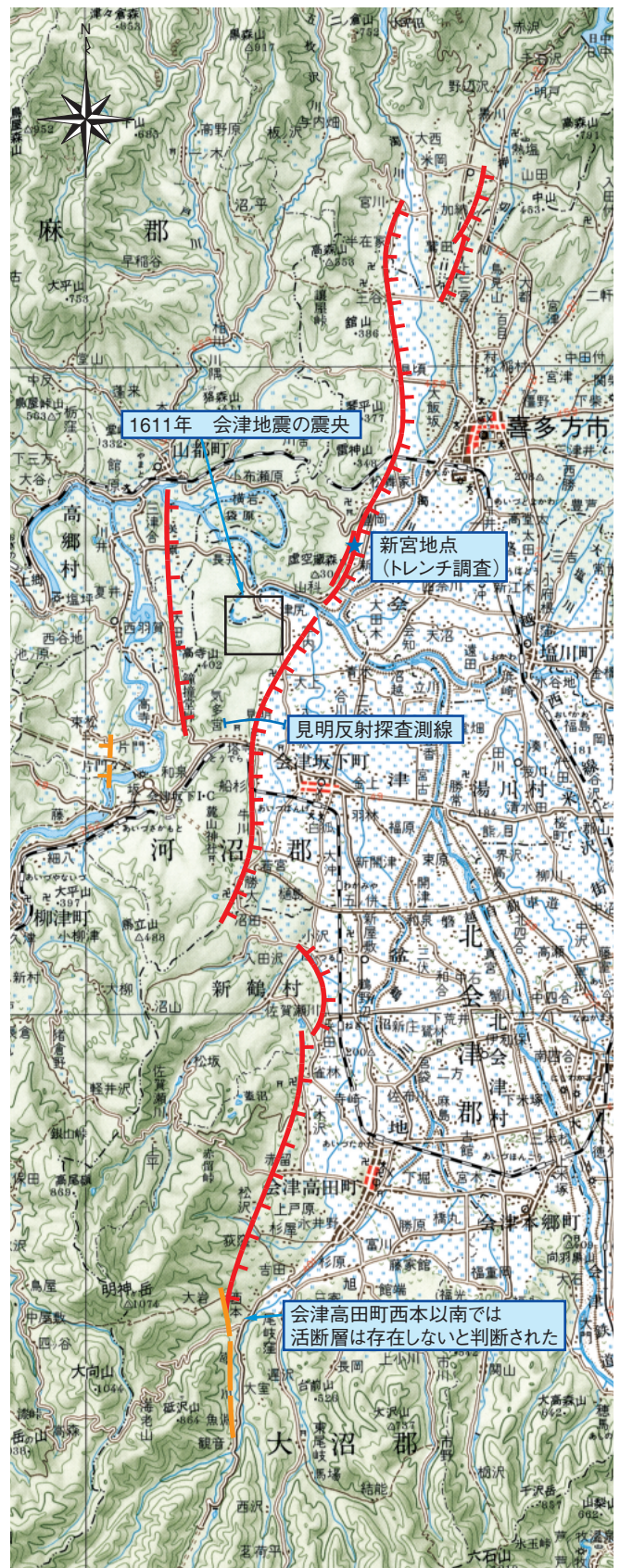
この断層帯は、逆断層型の縦ずれ断層で、断層の活動により、会津盆地に対して西側の山地が隆起しています。

#### 過去の活動について

西暦1611年の会津地震は、古文書に記されている被災規模や分布から、会津盆地西縁断層帯の活動によるものと考えられますが、調査の結果、地表に明瞭な断層は出現しなかった可能性が高いことが明らかになりました。

それ以前の断層活動としては、本断層帯の北部(喜多方市新宮、会津坂下町見明ほか)で、約1600年前—約1700年前の間、約7000年前頃、約9200年前—約9800年前の間、約12000年前—約14000年前の間の活動が推定されました。したがって、これらの活動の平均的な間隔は約3800年となります。また、これらの最近の2回ないし3回の活動による一回分の変位量(ずれの量)は平均で約2.5m~2.7mであることが明らかになりました。

ただし、本断層帯の南部(新鶴村、会津高田町)では、過去の活動に関するデータが得られておらず、北部とは別の断層である可能性も否定できません。



#### 会津盆地西縁断層帯の分布図

国土地理院発行の1/20万地勢図「新潟」に新編「日本の活断層」(1991)による断層及び調査位置などを加筆。

- : 活断層であることが確実なもの
- - -: 活断層と推定あるいはその疑いのあるもの